

芸術文化学研究科(芸術文化学専攻)の三つのポリシー

【 修士(芸術文化学) 】

<p>大学院の目的 (大学院学則 第2条)</p>	<p>研究科・教育部(専攻)の教育研究上の目的</p>
<p>本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>	<p>本研究科は、総合芸術を基盤とした人間の文化活動全般を教育研究の対象とし、独自の表現法とその成果の社会的活用という観点から、多角的研究手法による実践的研究を通じて、これからの社会において、学芸の深化を実現させる教育研究を通じ、芸術の成果を活用して心豊かな地域文化を創生するために、先導的役割を担う人材を養成することによって社会の創造性を強化することを目的とする。</p>

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【修了認定・学位授与の方針】 芸術文化学研究科は、当該研究科の科目を履修し、基準となる単位数を修得かつ「修士論文」又は「特定の課題についての研究成果」の審査及び最終試験に合格した者に修士(芸術文化学)の学位を授与する。本研究科で学位を取得した者は、芸術文化分野における基礎的能力、専門的学識、倫理観、創造力を持つと共に、次の三つの人材像にふさわしい能力を身に付けている。 ・新時代の芸術文化を担うアーティストにふさわしい高度な能力 ・クリエイティブな産業のコーディネーターにふさわしい高度な能力 ・新たな地域文化のリーダーにふさわしい高度な能力</p>	<p>【教育課程編成方針】 芸術文化学研究科は、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、芸術文化学において、芸術の普遍的な価値を見据えて多様な表現で芸術文化を創造できる、基本的視野を育成するための共通科目群と多岐にわたる専門分野を探究する専門科目群とを開設、研究科の全課程を通じた課題研究として「特別研究」を開設する。 【教育課程実施方針】 指導教員、副指導教員の指導、助言を中心に、学生による能動的な学修を行う。2年間を通して行われる「特別研究」(課題研究Ⅰ、課題研究Ⅱ)を核として、各学生の研究内容、主体性に応じた科目を履修させ、「修士論文」または「特定の課題についての研究成果」の作成と発表を指導する。理論と実践とをバランス良く学ぶことで、専門分野についての能力を深化させると共に、地域と連携した学修により芸術文化の社会的役割を認識し、高度専門職業人としての責任感を醸成する。</p>	<p>【入学者受入れの方針】 芸術文化学研究科は、大学院の目的、研究科の修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、芸術文化学分野についての強い関心と基礎的能力を有し、論理的思考力と創造性を持ち、文化の進展に寄与しようとする意欲を備えている者を受け入れる。 【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 多様な学生を受け入れるため、複数の受験機会、外国人留学生用の入試を用意する。 一般入試(前期日程)(後期日程) 「小論文」では論理的思考力、表現力を評価する。「英語外部試験」では、基礎的英語能力を評価する。「口述試験」では、志願理由書及び研究計画書に基づき修学条件、研究意欲、研究能力を判定、評価する。 外国人留学生特別入試 「小論文」では、日本語の筆記能力、論理的思考力、表現力を評価する。「口述試験」では、日本語によるコミュニケーション力に加え、志願理由書及び研究計画書に基づき修学条件、研究意欲、研究能力を判定、評価する。</p>
【学修成果の到達指標】	【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>基盤的能力</p> <p>【学修成果】 学問分野を問わず、基盤となる豊かな学識や、俯瞰的、大局的視野を身に付けている。 【到達指標】 共通科目において、複数の科目群より6単位以上の科目の単位を修得している。</p>	<p>【学修内容】 共通科目において、複数の科目群より6単位以上の科目の履修をする。 【学修方法】 講義形式の授業により学修する。 【学修成果の評価方法】 各科目のシラバスに明記した基準により成績評価する。</p>	<p>芸術の成果を活用して、心豊かな地域文化の創生を志し、芸術に関する基礎的な表現手法あるいは知識が形成されている者、芸術文化に関わる独自の感性を深化させたい者、心豊かな地域や社会を具体的に提案することに意欲を持って取り組める者、これからの社会の担い手を目指す者。</p>
<p>専門的学識</p> <p>【学修成果】 専攻分野における研究能力、及び高度の専門性を要する職業に必要な能力を身に付けている。 【到達指標】 指導教員、副指導教員の指導を基本とする特別研究8単位を含め各学生の研究に合わせた科目構成による科目を24単位以上修得している。かつ、「修士論文」又は「特定の課題についての研究成果(修了制作と副論文)」の審査及び最終試験に合格している。</p>	<p>【学修内容】 指導教員、副指導教員の指導を基本とする特別研究を中心に、各学生の主体性、研究に合わせた科目構成による教科を履修する。 【学修方法】 指導教員、副指導教員の指導を基本とする特別研究8単位を含め、各学生の研究に合わせた科目構成による科目を24単位以上修得する。かつ、「修士論文」又は「特定の課題についての研究成果」の審査及び最終試験に合格する。地域と連携した実践的な調査や制作を取り入れ、学修成果を作品展や学会などで発表する機会を作る。 【学修成果の評価方法】 各科目のシラバスに明記した基準により、原則として複数の教員による講評をもとに成績評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 各専門分野において、基礎的能力、知識を備えている者。</p>
<p>倫理観</p> <p>【学修成果】 研究倫理に関する規範意識を身に付けている。 【到達指標】 研究者倫理・行動規範に則り、作品の制作、研究論文の作成ができる。</p>	<p>【学修内容】 研究倫理に関する規範意識を、それぞれの専門における事例をもとに学修する。 【学修方法】 指導教員、副指導教員の指導を基本とする特別研究の課程において、それぞれの専門における事例をもとに修得する。 【学修成果の評価方法】 特別研究の成績評価に含める。</p>	<p>【求める資質・能力】 一般的な倫理観、道徳論を身に付け、他人が創作した作品や研究論文を尊重する意識を持つ者。</p>
<p>創造力</p> <p>【学修成果】 自らが新たな知を創造し、その知から更なる価値を生み出す能力を身に付けている。 【到達指標】 特別研究の課程を基本に、その他の修了認定科目により補完しながら修得し育む。</p>	<p>【学修内容】 特別研究の課程においての修得を基本に、その他の修了認定科目により補完する。 【学修方法】 特別研究の課程においての修得を中心に、その他の修了認定科目の課題をこなしていく過程において、修得し育む。 【学修成果の評価方法】 各科目の成績評価による。</p>	<p>【求める資質・能力】 幅広い物事に知的興味を持ち、創造性、創造力に対して高い関心を持ち、文化の進展に寄与しようとする意欲を持つ者。</p>